

## ヤンゴンの都市脆弱性評価に関するワークショップが開催されました(2015/9/16-17)

テーマ：都市脆弱性評価、建物被害関数、ハザードマップ、ヤンゴン  
場所：ヤンゴン工科大学（ミャンマー連邦共和国、ヤンゴン）

災害科学国際研究所の村尾 修 教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）は、2014年度から2019年度にかけて実施される科学技術振興機構の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の「ミャンマーの災害対応力強化システムと産学官連携プラットフォームの構築（研究代表者：東京大学目黒公郎）」に共同研究者として関わっています。村尾教授の担当は「建物被害関数の構築とハザードマップの作成」であり、その一環として、東京大学生産技術研究所の研究者らと共に9月15日から17日にかけてヤンゴン市を訪れ、ワークショップおよび調査を実施しました。

9月16日にはヤンゴン工科大学にて、都市計画、交通計画、土木工学、地理学などの専門家が集まり、ヤンゴン市内の地震による建物倒壊脆弱性評価と交通に関するワークショップが開催されました。村尾教授は、本プロジェクト全体の説明と、建物評価グループの位置づけおよび計画について説明をしました。またヤンゴン市における「建物倒壊リスクと都市の脆弱性評価」について講演をし、各種データの整備状況などを考慮した今後の研究の進め方について、関係者とともに議論を展開しました。

9月17日にはヤンゴン都市開発委員会（Yangon City Development Committee：YCDC）を訪問し、建築確認申請処理の過程や、市内の建築物の構造や階数についての聞き取り調査を実施しました。また国際連合人間居住計画（UN-Habitat）を訪れ、近年に行ってきたミャンマーにおける地震に対するリスク評価や建物の建築基準についての話も伺うことができました。今後は、こうした知見を活かして、具体的な建物倒壊評価の手法について検討していきます。



ワークショップの風景



ヤンゴン工科大学教員との記念写真

文責：村尾修（地域・都市再生研究部門）